

創立四十周年記念「明野高校野球部物語」

# 開校三年目の快拳

～三十七年前に奇跡が起こった!～

平成二十八年七月

茨城県立明野高等学校

はじめに

学校長 深谷 浩一



本校は今年創立四十周年を迎えます。そんな節目の年に、再び本校に校長として赴任できましたことを、心よりうれしく思います。

さて、本校野球部が開校三年目にして甲子園に出場したという事実は多くの方がご存じだと思いますが、最初の甲子園からすでに三十七年も経過していることから、そのときのことを覚えている人も少なくなっています。当時「開校三年目の快挙」と新聞やテレビで大きく取り上げられましたが、旧明野町で巻き起こった、この「前代未聞の大フィーバー」を実際に体験した方々は年々高齢になっていると思われれます。

私が以前本校に赴任したのは、昭和59年4月のことで、本校が春の選抜で、取手二高とともに甲子園に出場した一週間後のことでしたので、その時の活気にあふれた校内の様子は体感できたものの、実際の甲子園での応援は経験していません。ましてや、最初の甲子園の時は高校を卒業したばかりで、しかも隣町に住んでいましたので、あの伝説になっている「バス100台の大応援団」のことも話に聞くだけでよくわかりませんでした。

このたび、再び本校に赴任し、これから本校の進むべき道を考えるにあたって、本校がこれまで歩んできた道程（みちのり）を創立四十周年を機に改めて振り返ることは大事なことだと考えていたところ、偶然にも、校長室に甲子園出場時に作成した貴重な資料が保管されていたので、本校の原点ともいえる「開校三年目の奇跡」の中身を再現してみることにいたしました。

三十七年前に、本校を舞台にして繰り広げられた、まさに「奇跡」とも言える世界を是非体験してみてください。

# 目 次

はじめに（学校長 深谷 浩一）

- 1 「僕たちで野球部をつくろう」（第2号）・・・1
- 2 「開校三年目の栄冠（1）」（第3号）・・・2
- 3 「開校三年目の栄冠（2）」（第4号）・・・4
- 4 「おらが町，おらが高校（1）」（第5号）・・・6
- 5 「おらが町，おらが高校（2）」（第6号）・・・7
- 6 「おらが町，おらが高校（3）」（第7号）・・・8
- 7 「おらが町，おらが高校（4）」（第8号）・・・9
- 8 「高松商を延長十三回撃破！」（第9号）・・・10
- 9 「前橋工に惜敗！」（第10号）・・・12
- 10 「敗れても誇らしく」（第11号）・・・14
- 11 「開校三年目の奇跡が教えてくれたこと」（第12号）・・・16
- 12 「対佐竹高戦，いざ出陣！」（第17号）・・・18
- 13 「野球応援，ありがとうございます！」（号外1）・・・19

※ 本誌は、校長室だより「一步一步」の中から、本校野球部の甲子園出場に係る号を抜粋したものです。興味をもたれた方は、本校のホームページにも掲載していますので、是非ご覧ください。



# 一歩一歩 第2号

平成28年5月10日（火）発行

校長 深谷 浩一

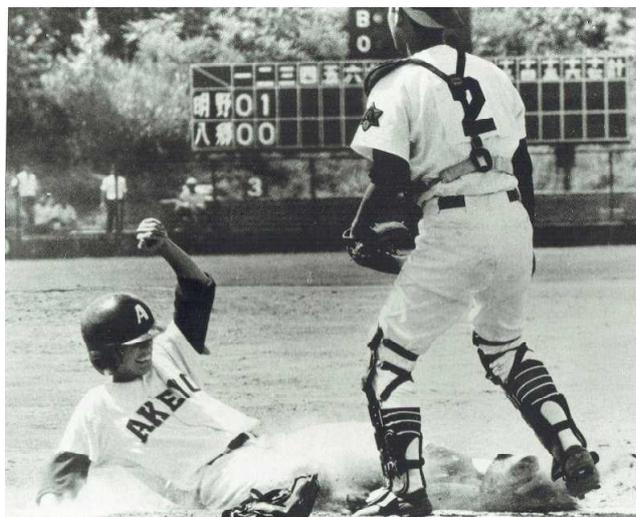
## 「僕たちで野球部をつくろう」

本校が旧明野町に開校したのは、昭和52年（1977）4月のことでした。開校したとはいえ、その時点では、体育館もグラウンドもありませんでした。そんな中、新入生の斎藤郁夫君、鹿野谷裕規君が「僕たちで野球部をつくろう」と選手集めに奔走し、5月、本校野球部が誕生しました。開校準備職員として、下館一高から赴任した浅野正勝監督のもと、練習が始まりましたが、本校のグラウンドが使える状態ではないので、明野中学校、町営グラウンド、企業の球場などを転々として練習を続けました。



昭和52年夏の茨城大会での入場行進

開校初年度の昭和52年7月、1年生ばかりで夏の大会茨城県予選に出場。1回戦の相手は石下高校で、5対1で敗退してしまいました。応援団も結成されたばかりで、何もかも初めてのチームでした。



三回表、北島の三ゴロ敵失で二走・仁平君が一気にホームへすべり込み2点目

開校2年目の夏の大会。対戦相手は八郷高校。二回にピッチャー斎藤君の左翼越え本塁打で先制し、四回まで3安打で3点をリードしたものの、残念ながら五回に一举6点を奪われ、逆転されてしまいました。六回に1点、九回に1点を返したものの、最終的に6対5で敗退してしまいました。夏の県予選初勝利まで、もう1年待たなければなりません。

そして、翌年、昭和54年7月、いよいよ「開校3年目の奇跡」がやってきます。次回をお楽しみに！

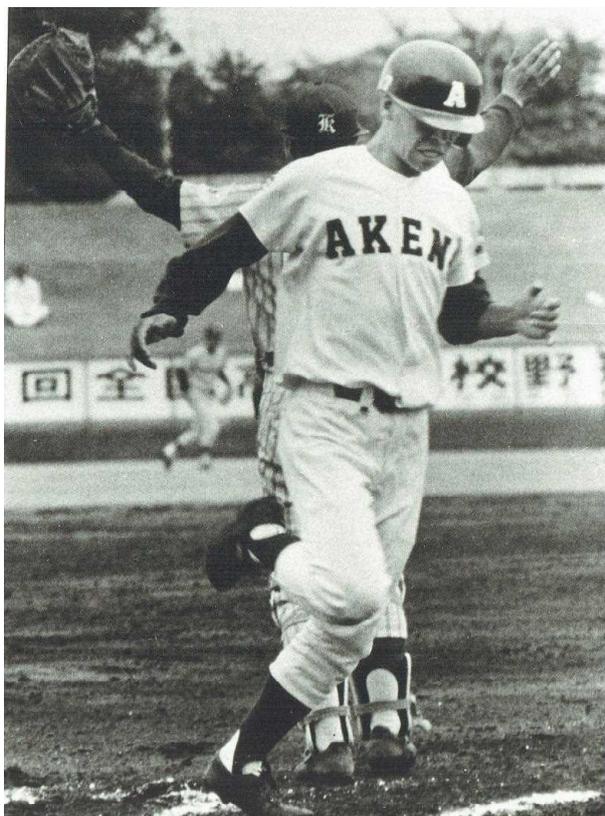


# 一歩一歩 第3号

平成28年5月11日（水）発行

校長 深谷 浩一

## 開校三年目の栄冠 (1)



開校一年目も二年目も夏の大会で一回戦負けを喫してしまった本校野球部。いよいよ三年目を迎えます。

一回戦の相手は上郷農業高校。試合の様様を当時の新聞から原文のまま拾ってみます。

「二回一死後、鹿野谷が四球で出塁。北島は三振したが鈴木が左翼線に目のさめるような二塁打を放ちまず先制の1点。三回には、遊前内野安打で出塁の中沢が押し出しで還り2点目。五回にも、宮島の二塁内野安打が敵失を誘って武井が3点目のホームイン。斎藤投手は速球がさえ、上郷農を五回まで1安打に抑えた。

昨年まで1回戦で敗退していた明野は念願の2回戦進出を果たした。」

二回裏、鈴木君の左翼線二塁打で鹿野谷君が先制の生還

上郷農	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
明野	0	1	1	0	1	0	0	0	×	3

▷二塁打 鈴木 北島▷残塁 上3 明7▷併殺 上1 明0▷試合時間 2時間16分▷審判 菊池芳 桜井 高倉 山野

記念すべき夏の大会初勝利を挙げた本校野球部は、二回戦で茨城キリストと対戦します。試合は1点を争う好ゲームとなりました。この試合も新聞記事から引用します。



「斎藤投手は速球とカーブで茨城キリスト打線を抑え、9三振を奪った。三、四回には、三塁を踏ませるピンチとなったが、守りも固く切りぬけた。一方、打線は七回を除いて毎回安打や四球で出塁したが、いずれも適時打が出ず、双方とも八回まで無得点が続き、九回を迎えた。明野は一死後、北島が左前安打を放ち、続く鈴木は遊ゴロで北島が二塁に進み、大林の右前安打で満塁のチャンスを迎えた。次打者、渡辺は投前スクイズを決めて北島は生還。決勝点となった。」

明	野	0	0	0	0	0	0	1		1
茨城キリスト		0	0	0	0	0	0	0		0

▷二塁打 瀬谷▷残塁 明8 キ5▷併殺 明0 キ1  
▷試合時間 2時間30分▷審判 鴨志田実 天野 黒須 山野

九回表、渡辺君が勝負を決めるスクイズ

これで波に乗った本校は、続く三回戦で銚田農業高校に完封勝ちし、四回戦では土浦三高を接戦の末1点差で逃げ勝ち、ベスト8入りを果たしました。

本校野球部の快進撃はまだまだ続きます。(つづく)

<三回戦> 対銚田農業戦



銚田農	0	0	0	0	0	0	0	0		0
明 野	0	1	0	0	3	0	0	0	×	4

▷二塁打 鹿野谷 北島 武井▷残塁 銚3 明7  
▷併殺 銚0 明0▷試合時間 2時間1分▷審判 高安 菊池芳 畔野 高久

二回戦に続いてスクイズを成功させた渡辺君

<四回戦> 対土浦三高戦



打越	選	選	明	土
大和田	合	三	野	浦
	時	塁	0	三
	間	打	1	0
	2	鹿	0	0
	時	野	0	0
	間	谷	0	0
	47	二	1	0
	分	塁	0	0
	▽	打	0	0
	審	武	0	0
	判	井	0	0
	鴨	北	0	0
	志	島	0	0
	田	小	×	1
	実	泉		
	大	野		
	津	▽		
	明	野		
	1		2	1

二回裏、スクイズ失敗で飛び出した鹿野谷君 三本間にはさまれたがすべり込みセーフ!

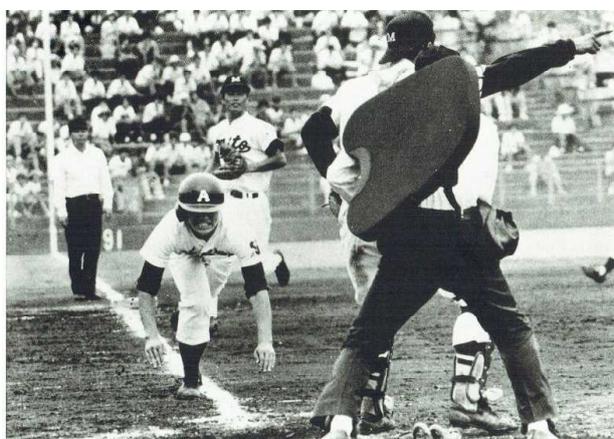


# 一歩一歩 第4号

平成28年5月12日（木）発行

校長 深谷 浩一

## 開校三年目の栄冠 (2)



三回裏、大林君のスライズで逆転の3点目を入れる

準々決勝の相手は、水戸商でした。水戸商に初回2点を先制された本校は、三回、ノーアウト満塁のチャンスを迎えます。そこで、北島君、鈴木君が連続安打を打ち、同点。続く大林君がスクイズを決めて、1点勝ち越しました。その後、ピッチャーの斎藤君は持ち直して、得点を与えませんでした。

準決勝は、緑岡高でしたが、二回から小刻みに得点し、六回に大量6点を挙げて、六回コールド勝ちとなりました。この試合で本校は全員安打の19安打の記録を作り、決勝へと進むことになったのです。とうとう「開校三年目の奇跡」まであと1勝に迫ったのです。

明野	水戸商	▽二塁打 鯉淵	市村
0	2	▽残塁 水5	武井
0	0	間 2時間45分	水1
3	0	▽審判 藤田	中沢
0	0	▽併殺 明8	明0
0	0	浦野	▽野選
0	0	高安	桑名
X	0	仁平	試合時
3	2		



<準決勝>対緑岡戦 六回裏、本塁へ突入する鈴木君 この回明野は一挙に6点を入れた

緑岡	1	0	0	0	1	0	2
明野	0	1	1	2	2	6	12

(6回コールド)

▷三塁打 前嶋▷二塁打 武井▷残塁 緑8 明8▷併殺 緑1 明0▷試合時間 2時間27分▷審判 永野 飯村 坂本 小林

決勝戦の相手は、竜ヶ崎一高でした。試合経過については、また新聞記事から引用させていただきます。

「初回、竜ヶ崎一の先制のチャンスを斎藤の好投で切りぬけた明野は、二回一死後、鹿野谷が中前にはじき返し、続く北島が左前安打で一、二塁と先制機を迎えた。ここで鈴木が外角高めの好球を左中間に二塁打を放ち、二者生還。」



「三回には先頭打者の武井がまず中前安打、中沢のバントで二塁へ進んだ。宮島三振の後、斎藤の一ゴロは一塁手、根本が後逸、一、三塁と追加点のチャンス！吉田は続く鹿野谷に暴投してしまい、武井がホームイン。3点目を入れた。」

「一方、竜ヶ崎一は四、五回に得点し、1点を争う好試合となったが、斎藤のカーブと速球がさえて竜ヶ崎一の強打戦を寄せつけなかった。特に終盤の七、八、九回は三者凡退に抑え、3-

2で古豪竜ヶ崎一を破り、甲子園への切符を手にした。

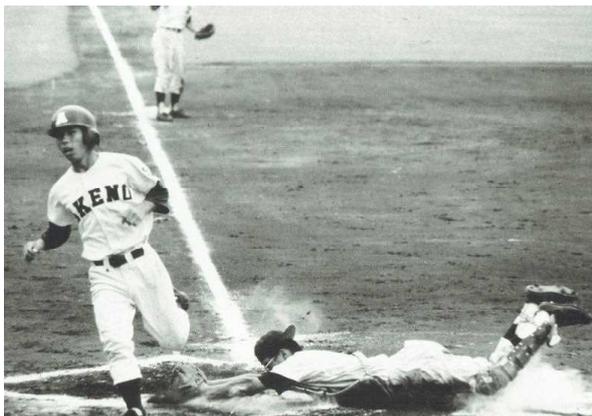
一戦、一戦を体当たりで勝ちぬき、ついに県代表を勝ちとった明野の快挙は、開校三年目という全国的にも珍しいケースだった。」

竜ヶ崎一	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
明野	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3

▷二塁打 鈴木▷暴投 吉田 斎藤▷残塁 竜6  
 明7▷併殺 竜0 明0▷試合時間 2時間3分  
 ▷審判 長洲 永野 小口 藤池



バッテリーに指示を出す浅野監督



<決勝戦>対竜ヶ崎一戦 二回裏、鈴木君の二塁打で生還した北島君

こうして、ついに本校は開校三年目にして甲子園出場という快挙を成し遂げました。しかし、話はこれで終わりではありません。むしろ、私が皆さんの心に留めてほしいと願うのはこの後の話です。旧明野町がどのようにして本校の「甲子園行き」を支え、応援してくれたのか、についてお話ししたいと思います。

それでは、いよいよ、次回から本題に入ります。